

絵 画

切手の中には、美術館が所蔵しているコレクションなどの優れた芸術作品や子どもの絵などを題材としたものも多く見られます。もちろん、そこには人とウシとの様々な関わりが描かれていますが、ここでは、美術作品としての性格が強いものを紹介します。

ここで多くの方は、中南米のグレナダで葛飾北斎の錦絵が小型切手シートとして発行されていることに驚くのではないのでしょうか。この切手は、切手代理発行エージェントが発行したものです。自力で記念切手を発行することができない国が、外貨を得ることを目的に国の名義を貸して切手発行業務を委託するもので、豊かな国の切手収集家が好むデザインが多いことが特徴です。その国と関係ない他国の文化や動物が描かれているため、残念ながらコレクションとして高い評価が得られるものではありません。なお、この切手の原図である北斎の「七里ヶ浜ヨリ腰越ヲ眺望」には牛を引く童子が描かれていますが、そこをカットしたうえ縁取りが付けられているなど作品が改変されています。最近では、中国向けのエージェント発行切手が増えてきているといい、ドミニカ国、ネイビス、カンビア、トーゴから発行されている切手もそうしたものの一つです。

一方、子どもの絵を画題としたものとしては、道路にウシを放ち、人々がウシを追いかけて回すというテルセイラ島の伝統闘牛を描いたアゾレス諸島の切手など、人とウシとの様々な関わりを読み取ることができます。ボツワナとマダガスカルの切手には、ウシの模型で遊ぶ様子が描かれています。牧場主になってウシを飼うことを夢見ているのでしょうか。